

自分が七百の兄弟姉妹の幸福を賣つた重役者である事を、とていふかじの
功名手柄をいふたが、やうに吹聴して走り廻る。恥ぢるが、大馬鹿者さ
あつたといふ事だ。呆れ、物がいへない。

だが諸君、昔かう何処の國でも、いつの時代でも、馬鹿と盗賊の種、つた
たけしはないのだ。いくら今に西工の中にたつて、七百人をうろ大勢の中たつて、三
人や五人の馬鹿者と、氣狂と、卑怯者も居たろう。だが大多数の諸君は、
漸く、こんな馬鹿者共の口麻言に釣ら込まれ、やうに氣をうせ、水給へ
い、おんが奴が目附たり、此の端から面皮をひんむいて、うんを恥しめ、さ
が好んだ。大凡今、世の中に常識のある人間が、

△労働者にとつて、労働組合が利益だ。▽
と断言する人間があつたら、資本家さ、官憲さ、博士さ、學者さ
も羨はない。一人でも好いから、目に懸りたいものだ。せんが奴は馬鹿が氣

狂でない限り、一人ださある筈が、いふ。それをも、彼にも労働者の一人であり、また
うそにも一度でも組合に藉き、いふ事があるものか。現にその組合の運動に
依つて莫大な利益に浴して居るが、資本家の大に成つて、悪口を吐き、
散らしたり、僅か月五十銭の會費を憎んで、中傷的言語を弄するなんぞ
逆も正気な沙汰とは思へぬではないか。論、証據、見よ。

- △組合の規約や決議を正しく守り、▽
- △諸種の集會と正しく行い、▽
- △會費と正確に集めて居る、▽
- 即ち團結の固い、自覺の進んだ人々の居る、大多数の工場に於ては、今尚
最低賃銀は少く、つれづれ、作業時間短かく、休日と正確に守られ、格
るので、之等工場に於て、職工諸君の労働條件、生活状態は著しく改
善せられ、為に彼に健康を増進し、活氣横溢して居るではないか。之に